校舎との思い出

秋畑小学校は、明治七年四月に梅ノ木平の養学寺に設置されました。その後、いくたの歴史を経て昭和二年三月に現在の校舎が完成しました。

ここに掲載した作文は、長年この校舎で学んできた生徒たちが、この校舎と別れるにあたって、思い出をつづったものです。

秋畑小学校

おせわになった学校

一年　松井八千代

こうしゃさん、大いへんおせわになりました。もうすぐこわされるので、さびしいでしょうね。そのかわりに、みんなで、あなたみたいなげんきで、ながいきな学校をたてて、やりますからね。

一年生もみんな、まだ、まだ、このこうしゃにいたいのですが、もう、おわかれです。わたしの学校、ながいあいだ、はねたりとんだりしていたかったでしょう。どうもありがとう、ございました。わたしたちは、おわかれなのでなみだがでそうです。

わたしのうちでは、おじいさんも、おばあさんも、おとうさんもこの学校へでました。みんなでおせわになりました。どうもありがとうございました。

さようなら。さようなら。

さようなら　校しゃ

二年　さいとうさち子

わたしたちは、雨の日や風の日それにぐわいがわるい時は、西の校しゃに、おせわになりました。

西の校しゃには、いろいろな思いでがあります。わたしは、おなかがいたい時ほけん室で、かずみちゃんと、てんじょうばかり見ていた事もありました。一年生の時も、おせわになりました。理科室や図書室の時もおせわになりました。

こんどの新しい校しゃは、どんな校しゃかなあと、思います。でも、ずっと、おせわになって来た校しゃが、こわされてしまうのでなんだか校しゃが、かわいそうな気がします。わたしたちがおせわになって来た校しゃは、ろうかを歩いていると、ゆかがみしみしとなります。わたしは、ゆかがみしみしとなるのは、古くなったしょうこと、よくはたらいてくれたしょうこだと思います。でも、こんなに長く校しゃをこわさないでいられたことは、みんなが校しゃをたいせつにつかったからだと、思います。

こんど、新しくできる校しゃもたいせつにつかいたいと、思います。さようなら。古い校しゃ。長い間おせわになりました。さようなら。さようなら。

おせわになった校舎よ　さようなら

三年　新井千江美

一年のときからいっしょに、勉強してきたのに、その校舎が、こわされるなんてとてもさみしいけれど、また、新しい校舎が、たてられる。古い校舎のほうにも、一年からの、いいことや、いやなことが、いっぱいあります。その校舎が、生きている、みたいに思えた。それにこの三年のあいだ、せわになった校舎にお礼が、言いたい。いつまでもいつまでも、この古い校舎といっしょに、勉強したいけれどそういうわけにはいかない。校舎は、友だちだと思っていも。この校舎のことは、けっしてわすれません。この三年間、どうもありがとう。

この校舎には、おじいさんも、おかあさんも、おとうさんも、みんなの思い出が、いっぱいあると思います。この校舎のことは、わたしは、とてもだいすきです。

この校舎が、生きているとしたら、おじいさんたちのことを聞くと、知っているというかな。ほんとうにこの三年間、どうもありがとう、おせわになった校舎さんさようなら。

◀今はだれもいない校舎

ありがとう　年とった古い校舎

四年　松井詩津江

おじいさん、お父さん、お姉ちゃん、私、弟、たくさんの思い出をつめこんだ、学校。ほんとうにおせわになりました。

この学校はだいぶ古くなってしまいました。でも、そんな校舎をこわすのは、ちょっと残念な気分です。

今までおせわになった校舎、わたしたちにとっては思い出がいっぱいです。どんな時でも、りっぱにたっていた校舎は、ほんとうに力強いものでした。

今度の校舎のたてなおしによって、わたしは、一つ気づいたことがあります。もうずっと前のお父さんの時代からほうとく貯金という新しい校舎をつくる一部のお金